

## ■ストックマネジメント通信の創刊にあたって

農業を支えてきた用排水機場（ポンプ場）や頭首工（堰）等の農業水利施設は、宮城県全体で約4千施設に及び、その7割は既に標準耐用年数を超過し更新時期を迎えています。（下記表参照）

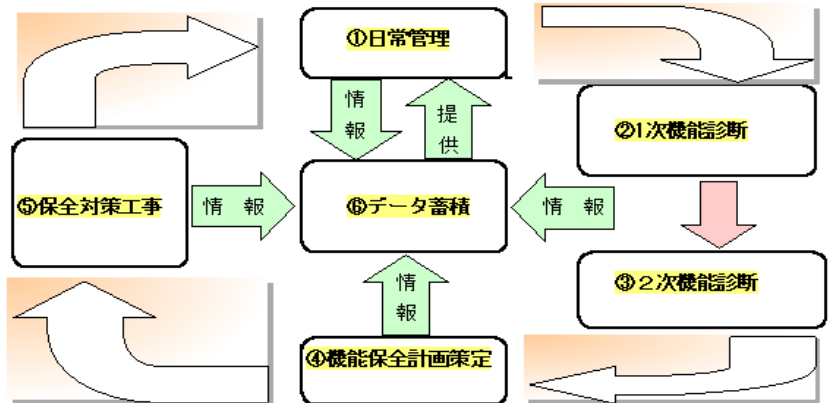
### ■農業水利施設の老朽化の状況（平成24年4月現在）

施設区分	施設数 (割合%)	標準耐用 年数	同左超過施設数 (超過割合%)
用排水機場	2,081 (53%)	20年	1,458 (70%)
頭首工(堰)	1,060 (27%)	50年	747 (70%)
水門・その他	812 (20%)	30年	487 (60%)
合計	3,953		2,692 <b>(68%)</b>

### ■造成主体別の施設数

施設区分	国営造成 施設数	県営造成 施設数	団体営造成 等施設数	合計
用排水機場	61	779	1,241	2,081
頭首工(堰)	18	41	1,001	1,060
水門・その他	88	287	437	812
合計	167	1,107	2,679	<b>3,953</b>

このような既存水利施設の有効活用と延命化を図る観点から、農業水利施設ストックマネジメント推進会議を組織し、適切な機能診断と予防保全対策（早期発見・早期治療）を実施することで施設のライフサイクルコスト低減を目指しています。



## ストックマネジメントに取り組むにあたってのメリット

- ①県財政や農業情勢等から更新ニーズへの対応が困難な状況にあるため、既存の農業水利施設の適切な機能診断と予防保全対策により長寿命化を推進し、施設のライフサイクルコストの低減を図ります。
- ②長寿命化対策が取り組まれ、近い将来に更新が必要な施設については、計画的かつ機動的な更新整備を実施することにより、農産物の安定生産や農業水利施設の持つ多面的機能の維持増進を図ります。

現在、宮城県では、復旧・復興に向け一丸となり取り組んでおりますが、同時に施設の更新に向け、機能診断結果による予防保全計画の作成や、劣化度に応じた計画的な施設更新計画の策定により準備を進めていかなければなりません。

宮城県内のストックマネジメント情報を交換することで、宮城県に合ったストックマネジメント手法を確立し、適切に維持更新していくことを目指しています。

\*ストックマネジメントとは…「施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための技術体系及び管理手法」のこと

\*ライフサイクルコストとは…建設から修繕費、保全費、光熱費、廃棄処分費まで含めたトータルコストのこと

## ■平成 24 年度上半期の取組み

9 月末時点の進捗状況は次のとおり実施しており、これまでは概ね計画どおりです。

- ・ 関係機関の連携による 1 次（簡易）機能診断を 50 施設で実施します。（年間目標）  
（9 月末実施状況は、17 施設で実施中です。）
- ・ 県営基幹水利施設ストックマネジメント事業（対策工事）を 3 地区で実施します。（年間目標）  
（9 月末実施状況は、1 施設です。）



（大河原地方推進会議による 1 次（簡易）機能診断：丸森町）

## ■平成 24 年度下半期の取組み

- ・ 土地改良施設維持管理適正化事業において、施設の整備補修を実施します。
- ・ 農業水利施設情報の適正管理（施設台帳の更新）を行います。
- ・ 地方事務所と共に、施設管理者に対して水利施設ストックマネジメントの取組への普及啓発を行います。
- ・ 施設管理技術のスキルアップに向けた研修会を開催します。  
（11 月、12 月及び 2 月に県主催の研修会を実施予定です。）

## ■ストマネクイズ

- ・ 右は揚水機場の吐出水槽ですが、コンクリートから白い物が滲み出ている様子が確認出来ます。これは何でしょう？また今後発生すると考えられる現象を推測して下さい。答えは一番下に書いてあります。



- 問い合わせ先 宮城県農林水産部農村整備課 水利施設保全班 TEL 022-211-2876  
HP [http://www.pref.miyagi.jp/nosonsei/suiri\\_sisetsu/sutok1-1.html](http://www.pref.miyagi.jp/nosonsei/suiri_sisetsu/sutok1-1.html)  
宮城県土地改良事業団体連合会 管理指導部 TEL 022-263-5812

※白い物はエフロレッセンスと呼ばれるもので、セメント中の可溶性成分（カルシウム塩やアルカリ塩）が溶出したものです。それ自体はコンクリート部材性能を低下させることは少ないですが、水分の移動との関係が深く、ひび割れを伴っていることが多いため、鉄筋の腐食やその他の変状・劣化の発生を疑う必要があります。